

能登半島地震支援助成 報告・意見交換会



本日の流れ

- 昨年度活動団体による報告
- テーマに沿って意見交換

現地で感じた課題

今後の活動・支援について

団体間の連携の可能性

神戸市から支援する意義

神戸市民に伝えたいこと

次回災害時に向けた備え

行政との協働のあり方

被災地NGO協働センター

団体の概要

- 阪神・淡路大震災発生後の1995年1月19日に結成された、阪神大震災地元NGO救援連絡会議（代表・草地賢一）の分科会の一つとして、同年8月1日「仮設支援連絡会」として発足。翌1996年4月1日、「阪神・淡路大震災『仮設』支援連絡会」に改組し、分科会より独立。1998年4月1日より「被災地NGO協働センター」と改称し、現在に至る。
- まけないぞう事業（400円で販売、うち100円が作り手さんの収入）
- 災害救援事業
- やさしや足湯隊（能登半島地震支援）
- ネットワーク・提言事業
- 広報事業



被災地支援の活動内容・結果

- 活動場所：七尾市中島町及び近隣地域
- 連携先：小牧町会、七尾市社会福祉協議会、その他支援団体
- 活動内容
 - 物資配布／居場所づくり
 - 情報発信
 - 炊き出し
 - お片付け・清掃
 - 避難所環境整備
 - 足湯ボランティア
 - 引越し支援・個別訪問
 - 相談対応・相談会
 - 他団体とのネットワーク形成
 - 地元団体の支援



被災地支援の活動内容・結果

活動経過

1月から現地に拠点を設け中長期的な支援活動の基盤を築いた。継続して物資配布等をおこなったことで、信頼関係も築くことができ徐々にお片付けのニーズも増加。

4月以降、随時仮設住宅でのイベント等は実施（月1回程度）

5月ごろから制度の不安などについて相談される方が増えてきたため、弁護士会等と連携し法律相談会なども実施した。

9月には水害が起きたため、七尾市での片付け活動は頻度が減ったが、年明けごろから公費解体に伴う引越しや災害ゴミ搬出のニーズが徐々にまた出てくるようになった。

現地で気づいたこと

能登半島は地域の方々の団結力が非常に強く、地域と連携して活動することが大変重要になってくる。まだ片付けのニーズ含め、ボランティアの手伝いが必要とされている。また、被災者の方々は不安な気持ちを持っているため、お話を聞く傾聴ボランティアや、コミュニティのつながりをつくるための居場所づくりなどが今後求められている。

活動により達成された効果等

支援が漏れがちな在宅避難者への支援をおこなったことで、隠されたニーズが見えてきており、そうしたお困りごとにも地道に対応することによって、在宅避難者の自立を支えていくことができている。

被災者の方々の細やかなニーズに応えることができた。また、仮設住宅等でのコミュニティ支援も継続していたため、仮設団体の自治会形成や集会所建設のための要望書提出など、住民の主体的な動きにつながった。



チーム神戸

団体の概要

- 阪神・淡路大震災以降、各地での災害被災地支援を行うボランティア団体です。
- 発足から今日に至る活動でのご縁から、建築・法務・報道・医療の各分野の方々と連携し、避難所での初期支援から被災家屋からの貴重品レスキューや、コミュニティ再生のサロン活動などを行っています。
- 活動メンバーは主に社会人ですが、能登半島支援では次世代育成を目的に、学生コーディネーターの育成やスキル向上、各地からの後方支援のサポートなども行い、ボランティア人口の増加を意識し、講演活動も行っています。

避難所



保育園



在宅



被災地支援の活動内容・結果

- 支援先は石川県輪島市・珠洲市・能登町。
- 現地連携先は各市町の社会福祉協議会。地元の既存自治会と仮設住宅自治会。公民館や地元ボランティアグループ。
- 支援内容は避難所の衛生管理や炊出しなど。車中泊や在宅避難者への聞き取りや支援物資配布。被災家屋の貴重品レスキューや応急補修。仮設住宅や公民館でのサロン活動。被災問題の相談会や勉強会。
- 上記の活動を通じて、長期化を想定する事や被災当事者による共助活動の重要性と意義を知って貰えたことが、僣越ながらも大きな結果だと捉えています。

仮設住宅



相談会



公民館

北神戸田園ボランティアネット

団体の概要

- 団体名 : NPO活動法人北神戸田園ボランティアネット
- 代表者名 : 佐藤由美子
- 活動概要 : 北神戸田園スポーツ公園敷地内の里山整備、環境学習、被災地支援



炭火でお菓子作り



里山の整備



農業体験

被災地支援の活動内容・結果

- ・ 活動場所：石川県珠洲市、七尾市
- ・ 活動内容：泥だし、片付け、炊き出し、コミュニティ支援

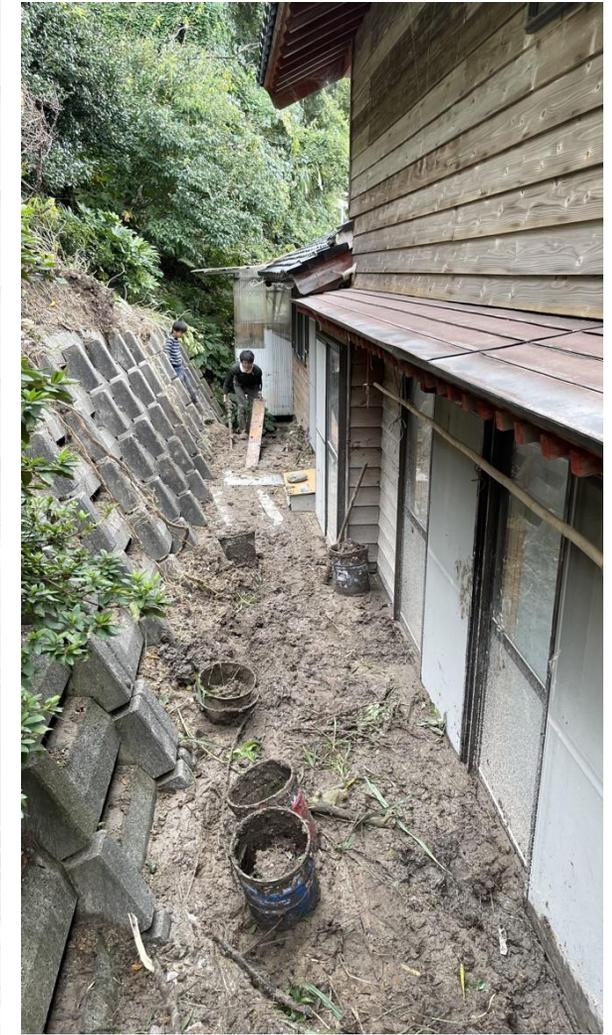
①珠洲市では、震災及び豪雨で大きな被害を受けた大谷地区を中心に、泥出しや片付け支援を行ないました。加えて、現地の高齢者と共に大福の会を設立し、コミュニティ活動の活性化にも関わりました。

②七尾市では、現地の妙圀寺と連携し、コミュニティ支援を行っています。地域住民の方、特に地元の子どもたちを中心に、大福づくり、たこ焼きづくり等の体験型炊き出しと慰問コンサートをお届けしました。

- ・ 成果：派遣回数 14回、派遣人数：のべ45人



珠洲市での泥だし支援の様子



珠洲市での泥だし支援の様子



珠洲市での支援活動の様子



七尾市での活動の様子



七尾市での活動の様子



被災地支援の活動内容・結果

- 成果

派遣回数：14回

派遣人数：のべ45名

交流人数：約410名

小さい法人ですが、機動力と日頃から作っている農作物など食を生かした支援ができたことで、地元の方との継続的な関係性を築くことができました。

- 今後の課題

仮設住宅に移転後のコミュニティ支援が次第に減っているという声を多数聞きました。息の長い関わりが求められると感じています。

神戸大学
学生震災救援隊

団体の概要

神戸大学学生震災救援隊

1995年に阪神淡路大震災をきっかけに発足。
様々な形で支援活動を行っています。

活動概要

- ・被災地支援活動

現在は能登半島と宮城県をメインに被災地支援活動を行っています。

- ・その他の活動

救援隊の三つの下部団体がそれぞれ活動を行っています。

- ① 灘チャレンジ実行委員会・・・復興祭の実施
- ② 灘地域活動センター・・・復興住宅でのお茶会の実施
- ③ 神大モダン・ドンチキ・・・ちんどん屋



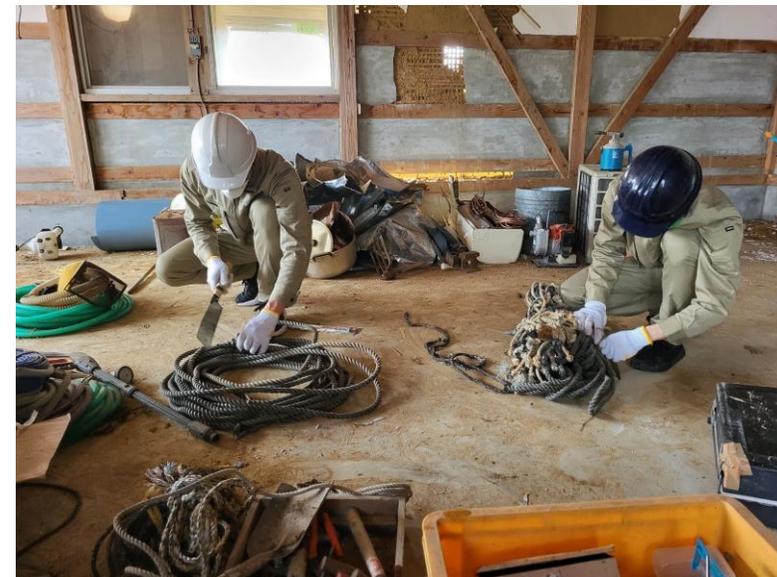
被災地支援の活動内容・結果

被災地NGO協働センターと連携の上、主に石川県七尾市・輪島市で活動した。

2024年度は神戸市からの助成を受けて合計回の派遣活動を実施。

家財の修復・家財整理・瓦礫の撤去・ゴミの分別・清掃活動などを行った。

当団体の活動で、民家・飲食店などの撤去・修復が進み、被災者の方々の復興の助けになった。



神戸防災技術者の会

団体の概要

阪神・淡路大震災の経験や教訓の伝承を目的に2004年7月設立

1. 阪神・淡路大震災の経験の伝承活動

- ①「神戸で学ぶ防災学習」（修学旅行生などの受入れ）
 - ・小・中・高等学校、地域団体への防災研修
- ②神戸市職員、他の自治体職員への防災研修
- ③JICA研修（ODA対象地域の防災担当者研修）

2. 災害発生地域の支援

- ①東日本大震災被災自治体への会員派遣・後方支援、被災自治体職員などと復興交流セミナー開催
- ②新潟県中越、能登半島地震・などへの支援
- ③海外災害被災地復興支援
 - ・中国汶川・トルコなどでの自然災害・復興セミナー参加

3. 定例会（毎月開催、計248回）などでの学習

- ①防災・減災に関する研究
- ②阪神・淡路大震災からの復旧・復興、生活再建等の経緯の共有
 - ・テーマ事例「伝承活動を皆で分かち合うための勉強会」
- ③災害発生地域の調査報告

4. 図書の発刊

- ・「伝承 阪神・淡路大震災—我々が学んだこと—」
- ・「新潟県中越地震に学ぶ」
- ・「東日本大震災 被災地レポート～見た・聴いた・学んだ～」
(以降、第2、第3、第4、第5、第6 報告書作成) 他



「神戸で学ぶ防災学習」修学旅行生と震災遺構巡り（メリケン波止場）

被災地支援の活動内容・結果

1. 「車座トーク」の開催

珠洲市合併前の10地区において、被災地住民の意見集約と確認を行うために、「車座トーク」を開催した。「NPO神戸まちづくり研究所」と協働で珠洲市へ計7回訪問し、現状での不満や要望、地域の復興に何を望むかなどを「車座トーク」でヒアリングを計28回実施。

2. 被災地域の各種団体との連携

計7回の現地訪問は全て「NPO神戸まちづくり研究所」と行動。被災地域で活動している団体と復興に関する意見交換を行った。

3. 地域コミュニティ形成への寄与

復興のあり方について住民同士が意見交換できるように、住民の意見を市の復興計画に反映できるように、まちづくり協議会を神戸で立ち上げたことを伝える。

現地訪問の都度、住民意見なども踏まえて、珠洲市の復興担当部局と意見交換を行った。

10地区のうち4地区では令和6年度内にまちづくり協議会が設立され、2地区でも設立に向けた準備が進められている。

まちづくり協議会では、地域住民の意見集約を行うことを確認しており、その内容を珠洲市の地区別復興計画に反映されるように、珠洲市と協議してもらえる予定。

なお、令和7年度の珠洲市の予算に、まちづくり協議会の運営を支援するための助成金が計上された。



直地区 車座トークの様子

NPO法人
ユナイテッド・アース

団体の概要

2006年には事業収益を原資としてNPO法人を設立。海外支援、災害復興支援、社会起業家育成など様々なプロジェクトを展開。特に災害復興支援においては国内外から集まった延べ4万人以上のボランティアや企業と共働り、地方に拠点を設け、若者を中心とするボランティアが参画するコミュニティ形成および交流人口の拡大に広く貢献してきました。

◆主な海外支援

- ・カンボジア自立支援 ・ケニア自立支援・中国四川省里親支援
- ・台湾・フィリピン災害復興支援等

長年支援を続けてきたカンボジアでは学習支援として小学校3校に図書館を建設。また井戸設置支援では建設数が300基を越え、約4500人の方へ清潔な水を提供できるようになった。

◆災害復興支援

- ・東日本大震災復興支援活動（2011年3月～2017年）
- ・熊本地震復興支援活動（2016年～2017年）
- ・九州北部豪雨災害復興支援活動（2017年）
- ・西日本豪雨災害復興支援活動（2018年）
- ・栃木県鹿沼市災害復興支援活動（2019年）
- ・令和2年熊本・福岡豪雨災害支援活動（2020年）
- ・令和3年熱海市伊豆山土砂災害支援活動（2021年）
- ・令和4年石川県豪雨災害支援活動（2022年）
- ・令和6年能登半島地震支援活動（2024年～2025年）



被災地支援の活動内容・結果

●令和6年1月5日より先発調査隊が石川県に入り、各地の被害状況や支援状況を視察。地域の復興を進めていく上で、産業の復興が重要であるという観点から、「生活復旧」と「産業復興」を並行して支援活動を行い、1日でも早い復興に向けてサポートを開始。

●特に観光産業の被害が大きい和倉温泉や能登島がある、石川県七尾市に支援ベース（活動拠点）を構える。

●主な活動内容

「産業復興支援」においては、地域の復興を進めていく上で、産業の復興することが非常に重要であるという観点から、主に地域の復興イベントのサポートや、能登島の旅館の清掃活動等を実施。

「被災者の生活再建」においては、地域の社会福祉協議会、ボランティアセンターと連携しながら、被災された家屋の清掃や災害ゴミの運搬等の支援を行い、被災者の生活基盤の立て直しをサポート。

ボランティア動員人数：延べ1,600名

- ・民家の家屋内清掃 約110件
- ・民宿の家屋内清掃 約30件
- ・災害ゴミ運搬 約60件
- ・農業支援 約5件
- ・施設の清掃 約20件 等



若者防災協議会

団体の概要

若者防災協議会は、防災教育活動を行う学生団体で、全国の高校生から大学院生まで多様なメンバーが所属し、兵庫県（主に神戸市）を拠点に活動しています。

令和6年能登半島地震の支援活動では、募金活動と現地での支援活動を行ってきました。

募金活動では、活動拠点である神戸市を中心に、全国でこれまで計10回以上、現地支援は約15回行ってきました。具体的には、瓦礫や家財道具の搬出などに加え、避難所への支援物資の運搬やニーズ調査などにも取り組みました。活動にあたっては、若者防災協議会だけでなく、能登応援サークルネットワークの加盟8団体とも連携しながら活動を行っております。



被災地支援の活動内容・結果

輪島市、珠洲市、能登町などで現地のニーズに応じた活動を行いました。

- 被災家屋の修繕実施
：7月12日～14日、12月14日～17日
→網戸を仮設置やコンパネを張り付けなど
- 地震で被災した家屋の家財搬出・災害ごみの搬出実施：8月17日～20日
- かき氷の炊き出し実施：8月20日
- 豪雨被災建物での泥かき実施
：9月23日～25日
- 雪かき作業実施：2月24日～26日



特定非営利活動法人
阪神淡路大震災一七希望の灯り

団体の概要

特定非営利活動法人阪神淡路大震災1.17希望の灯り (HANDS)
理事長 藤本真一

阪神淡路大震災1.17のつどいの企画運営
1.17希望の灯りの管理
震災を知らない若い世代への継承
震災を経験した神戸だからこそできる被災地支援
→東日本大震災、熊本地震、西日本豪雨など



被災地支援の活動内容・結果

- 2025年10月7日～9日、11月11日～13日
- 石川県輪島市町野町地区
- 地震発災直後から継続的に支援を続けている曾々木自治会
- 土砂のかきだし、家財道具出し、清掃



被災地支援の活動内容・結果

- 2025年12月16日～18日
- 神戸と曾々木、被災地同士の繋がりがこれからも続くようにという願いから、能登希望の灯り設置と、設置に向けたクラウドファンディングの実施が決まる



崩落した奥能登の守り神「窓岩」を模した…

能登にガス灯
「希望の灯り」を設置したい

崩落した奥能登の守り神「窓岩」を模したガス灯“希望の灯り”を設置したい！

117kibounoakari まちづくり・地域活性化
石川県

現在の支援総額
210,000円

7%達成 あと73日

目標金額3,000,000円 支援者数5人

お気に入り 2

プロジェクトを支援する

神戸学院大学
クローズアップ社会研究会+

団体の概要

- クローズアップ社会研究会は2019年に神戸学院大学現代社会学部に出来たサークル。兵庫知事選や衆議院選挙などをはじめとする社会問題を調査・研究している。
- そこから転じて、2024年1月の能登半島地震に際し、ボランティア活動に行くことし、同年3月、6月、8月、10月、12月と輪島市、能登町などで、家財の取り出しや炊き出し、清掃活動などを行ってきた。
- 今年度からは、神戸学院大学だけに限らず、京阪神間の大学、甲南大学や関西国際大学などの学生にも参加をお願いしたので+を付け、幅広い活動を展開。延べ100人以上が能登半島地震のボランティアに参加している。



被災地支援の活動内容・結果

【どこが空き家でどこに居住者が居るのかわからない】

地震と豪雨による輪島市の被災地区で、避難所入所や二次避難が相次ぎ、地域に残る在宅者数の確認と、支援ニーズの聞き取りを、苦慮していた区長や自治会役員に協力し、支援物資を手配し戸別訪問を行いました。

震災前は100世帯ほどでしたが、空地も増え3割以上の住民がこの地を離れていました。

2025年2月10日

寒波による大雪で現地入りも直前まで危ぶまれ、家族による意見から直前に参加断念した学生や、出先から現地合流した学生など様々でしたが、臨機応変に対応した高齢者宅の雪かきや、集会所での茶話会や炊き出しが、引きこもりがちになっていた方々に大変喜ばれました。

被災地では次々と様々な問題が折り重なっていて、それらに対する臨機応変な対応力が不可欠であると、気づき、多少ながらも学べたのが印象的でした。



本日の資料掲載ページ

神戸市 能登 報告 検索

<https://www.city.kobe.lg.jp/a52374/chiki/0610houkokukai.html>

 KOBE

ホーム > 社会参画・地域活性化 > NPO関連情報 > 能登半島地震支援助成の報告

能登半島地震支援助成の報告

最終更新日：2025年9月18日 ページID：73430

2024年1月1日に発生した能登半島地震被災地への支援として、神戸市では「被災地を支援する市民団体の活動への助成」を募集しました。

採択団体の方には、阪神・淡路大震災の教訓を活かし、被災地における市民生活の課題を解決するために活動していただきました。

(採択団体数 2023年度：6団体、2024年度：9団体)

活動報告（2024年度採択団体）

2024年度は、ふるさと納税を活用して当助成事業を実施いたしました。ご寄附をいただいた皆様に、心よりお礼申し上げます。



意見交換のテーマ

現地で感じた課題

今後の活動・支援について

団体間の連携の可能性

神戸市から支援する意義

神戸市民に伝えたいこと

次回災害時に向けた備え

行政との協働のあり方

ご参加ありがとうございました

